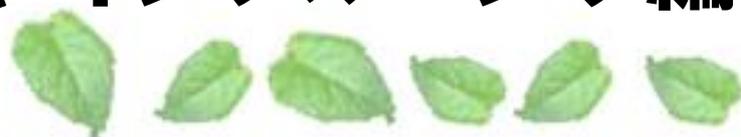


病気の問題改善
風邪・発熱・インフルエンザ編



もくじ

1 : スポーツドリンクで発熱?	3
2 : 間食が原因の肩こり	11
3 : 風邪でダウン!!	19
4 : 食べ過ぎによる風邪	23
5 : 風邪がしっかり治らなかったことで不安神経症に .	28
6 : 原因不明の発熱	35
7 : 新型インフルエンザに対して、漢方治療ではどのよう に対応しているか?	39
8 : インフルエンザの対策には?	43
9 : インフルエンザに対する本質的な対策法は?	45
10 : インフルエンザで解熱剤を飲んで自律神経失調症か らうつ病に?	51

❖ 1 : スポーツドリンクで発熱？

40代 男性

1週間前、急な発熱と吐き気、頭痛が強く会社を休んだ。

熱は出るが風邪ではないようで、休んでいれば治ると思っていたが、なかなか体調が戻らない。

うつ伏せで、背中を診ると、暴飲暴食の反応がある。

脈からは、肝臓と消化器系が異常に興奮していて、それ以外の臓器はかなり疲れているようだ。

このような反応から、胃酸が出過ぎていることがわかる。

その原因は、スポーツドリンクだった。

前にも、同じようなケース ([間食しすぎて肩こりに！！](#))
をご紹介したが、だらだらと食事を続けたり、間食をこま
めに取りすぎると、常に胃は胃酸を出し続けなければなら
なくなる。

この患者さんは、よく世間で「水を2リットルから3リッ
トル飲むと身体に良い。」という情報を聞くので、それならば、
スポーツドリンクの方がもっと身体に良いはずと思いこみ、
一日に2リットルほど飲んでいたらしい。

それでいて、普通に食事も取っている。

そして、大問題なところは、運動することもなければ、汗
もかいていないというところだ。

当然冬場は汗をかきにくい、しかも冷たいスポーツドリンクをどんどん飲んでいる。

そのため、腸は冷え、消化吸収しにくくなり、胃は、どんどん栄養価の高い飲み物が入ってくるため、胃酸を出さなければならぬ。

胃酸が出過ぎた胃の中は、少しずつ胃粘膜が溶かされていく。

そのため、吐き気が起きやすくなる。

そして、食事を普通に取っていても、スポーツドリンクで腸を冷やしているため、消化できずにどんどんお腹に溜まってしまふ。(腸は、温まらないとうまく働かない。)

溜まってしまったものは運動すれば何とか出せるが、本人がその事に気付いていなければ出しようがない。

そこで、身体は、運動と同じような反応を無理やり起こすことがある。

例えば、発熱、震え、痙攣などである。

この患者さんの場合は、発熱という形で反応が表れた。

また、胃や肝臓に炎症が起きると、頭痛が起きやすくなる。

これは、東洋医学独特な考え方ではあるが、炎症は、火と同じである。

従って、火は、上に向かって燃え広がる習性があり、腹部

内臓の中で一番上に存在する胃と肝臓に炎症が起きると、上に燃え広がってしまう。

肝臓は、胆嚢から十二指腸につながっており、胃は、十二指腸の手前に位置する臓器。

胃と肝臓は、管でつながっているため、火は、胃を通過して、食道から口、そしてその上にある脳に広がり、頭痛を引き起こすのである。

火が燃え上がろうとしても、スポーツドリンクで冷やされ、一時的に治まってしまうので、なかなか症状を表さない。

表したときには、かなりの症状になって表れるので大変だ。

このように、スポーツドリンクを飲み続けているだけでも、

このような苦しい症状が表れることがあり、身体は相互的に助け合っていることがわかる。

この患者さんの症状を治すためには、まず、間食すなわちスポーツドリンクをしばらくやめること。

飲み物だけでなく、3食以外は、あまり口に入れない方がいいだろう。

ただ、胃酸の出やすい状態があるため、一度に間食をやめてしまうのも危険である。

少しずつ抜いて、止めていってほしい。

そして、冷やしてしまった腸を、温かい飲食物で温め、しっかり睡眠を取ることで、本来の働きができるようにする

必要がある。

その手助けとして、水分代謝と胃腸機能の回復、そして睡眠を取りやすい状態に持っていくように、お灸を行い終了とした。

健康を維持するためには、胃と腸の関係、そして交感神経と副交感神経の関係が、非常に重要なポイントを握っている。

東洋医学では、陰陽のバランスで健康を保つという概念がある。

胃は交感神経、腸は副交感神経が機能させている。

そして、胃は、食べる時や日中に活動し、腸は消化吸収や

休息、睡眠時に活動する。

陰気は、日が沈んでいる時、陽気は、太陽が出ている時に、
活発化する。

日が昇り、日が沈む。

動いて、休む。

食べて、消化する。

このように、同じことをずっと続けることよりも、やったら休むというバランスが大事なのである。

❖ 2 : 間食が原因の肩こり

40代 女性

最近ずっと、肩こりがつらい。

いつもであれば、グルグルと肩と首を回せば、すぐに楽になるが、今回の肩こりは何をやっても楽にならない。

ただ、朝起きた時だけは楽しい。

うつ伏せで、背中全体を触ってみると、やはり肩のこりはかなり強く、それ以外にパッと気になる所見は見当たらない。

脈を診ると、急いできたせいか、かなり興奮状態で参考に

ならない。

そこで、肩の固さを取るように、鍼を行っていくと、何なく固さが抜けフニャフニャになった。

ここで、肩の感覚を聞いてみると、何も変化がなくまだつらいとのこと。

少し残っている背骨の固さを取り、さらに聞いて見ても同じ。

仰向けになってもらい、お腹を触ると「???'」

かなり固いが、全体が固いわけではなく、お腹にある消化器関連のツボが、目立って固くなっている。

ついでに、脚のすねの外側にある胃腸のツボを触ってみると、ツボが感じられないほど全てが鉄板のように固まっている。

これは、確実に胃腸の異常があると診て、いろいろ聞いてみることに。

「刺激物は食べてませんか？」

「コーヒーやお酒を飲み過ぎてませんか？」

「暴飲暴食はしていませんか？」

「偏食になっていませんか？」

「便秘や下痢は？」

全て当てはまらない。

精神的なところからかとも思い、

「緊張やプレッシャーを感じていませんか？」

「何か思い悩むことはありませんか？」

「最近気が滅入ることはありませんでしたか？」

なども、聞いてみたが全て該当なし。

しかし、どうしてもこの反応は、異常としか考えられない。

しかも、消化器に何か変動があるはず。

少し悩んだ挙句、

「間食がいつもより多くなっていることはありませんか？」

「常に何か食べていたり、逆に仕事が忙しい時は、お腹が空いているのに、何も食べれずつらかったりしませんか？」

「えっ？間食は多いと思います。しょっちゅう何か食べます。」

ようやく、ビンゴ。

常に食べ続けていると、胃酸が出続けてしまい、交感神経が優位になってしまう。

すると、不眠になるが、寝なくても元気な状態でいられる。

お腹が空いていても、何も食べれないと、胃酸が胃壁を溶かし始めるため、キリキリ痛むことがある。

という説明をすると、全て当てはまるらしい。

それまでは、睡眠もしっかりとっているようなことを言っていたが、実は、3～4時間で目が覚めてしまっていたようである。

しかし、目が覚めてもすっきりしているので、熟睡した気になっていたらしい。

さらに、説明をしながら、足のすねの外側へ、何回も鍼を打っていると、「もしかしたら、最近その筋肉がつるのも、

何か関係があるんですか？」と聞いてきた。

胃炎がひどくなったり、胃潰瘍の状態になると、肝臓同様、
筋肉を固くさせる習性がある。

仕事柄立ち仕事のため、固い筋肉を使い続けなくてはなら
ないので、疲れが溜まった時につってしまう。

肩の固さも、実際に筋肉の緊張は取れても、胃腸の緊張が
取れなかったので、こっている感覚だけが残ってしまった
のだ。

終盤は、胃腸を整えることだけを鍼で行い、立ち上がって
もらうと、「ビックリするほど軽くなった。」と非常に喜んで
いた。

この患者さんは、医療関係者であることから、胃がキリキリ痛んでも、しっかり寝て痛みが続かないから問題ないと思ったり、脚がつるのは電解質の問題と思い、水分量で調整していたらしい。

西洋医学と東洋医学は、こんなにも身体の診方が違うのかと、感心しながら帰って行かれた。

❖ 3 : 風邪でダウン！！

30代 女性

3日前からひどい風邪をひき、病院で薬をもらうが全く変化なし。

風邪だけでなく過労もあると言われたらしい。

症状は、緑がかった痰が出て、咳が止まらない。

鼻水もひどく、話すことも一苦勞という状態。

まず、うつ伏せで、脈を診ると、沈んでいて細く弱い。

これは、やはり過勞の風邪である。

発熱もないとのこと。

風邪は、発熱し発汗しなければ治りにくいもの。

しかし、過労からくる風邪は、発熱や発汗するパワーもなく、長続きしてしまうのが特徴である。

まずは、疲労回復と内臓のパワーアップが最優先であるため、風邪のことはさておき、そちらの治療を鍼にて行う。

すると、先ほどまで、鼻をすすり、咳き込む、そしてまた鼻ということを繰り返していたが、あっという間に寝てしまった。

しばらくそのままにしておくと、脈がかなりしっかりしてきた。

次に仰向けになってもらい、血液循環を行うツボに鍼を刺す。

鍼はそのままの状態、鼻と目に棒灸（タバコを長く大きくした形で、ツボに近づけ熱を放射する方法。温度調節を自由にできるので便利。）を行う。

「ああ、鼻が通ってきたあ！」という声で、本日の治療は終了した。

「棒灸がかなり気持ち良かったです。」といい、さらに、治療開始から咳がピタッと止まったことに、喜んで帰って行かれた。

このように、風邪には、意外と知られていないが東洋医学（鍼灸、漢方）が、効果的なことが多い。

本来であれば、風邪をひいたら東洋医学を選択するべきなのだが、今の医療事情では、知っている人以外は東洋医学で治そうとは思わない。

悲しいことだが、風邪をこじらせ、病院では治りそうもない時に来院するケースが多い。

どうにか、東西両医学の統合を行ってほしいものだ。

❖ 4 : 食べ過ぎによる風邪

40代 女性

1週間前に、風邪をひき、いまだ治らず。

今日になってようやく病院で、インフルエンザではなく、
ただの風邪だということが分かる。

症状としては、全身の関節痛、咳、鼻水である。

まず、脈を診ると、体内がかなり興奮している状態である。

そこで、まず、この興奮を収めるように鍼を行う。

すると、次には、胃と肝臓の機能低下が、脈に現れた。

これは、薬によるもの（通常、薬を服用すると胃や肝臓を痛めてしまうため、よく胃薬も処方されるのだ。）かとも思われたが、薬は今日処方されたばかり。

こんな影響が出るはずがない。

そこで、背中と足を細かくチェックする。

その触診から「食べ過ぎ？」という疑問がわいた。

そこで、

「風邪をひく前に、暴飲暴食しましたか？」と聞いてみた。

すると、しばらく考えた後、

「あっ！風邪をひく前は、クロアチアとイスラエルにいて、連日食べまくってました。」

「そういうことですか！これは、食べ過ぎによる風邪ですね。」

「えっ？食べ過ぎで風邪ひくんですか？」

「今回の風邪は、ひき始めの時に、のどが痛くなかったですか？」

と、問診では聞かれなかった症状を出してみると、

「はい、のどがひどく腫れてました。」

「暴飲暴食を行うと、胃や肝臓が興奮してしまいます。す

ると、この興奮による熱が、食道を通過のどに上がってくるんです。その熱が、のどに炎症を引き起こし、そこへ風邪が感染するという感じになるんです。」

「そうなんだあ！ てっきり帰国後、トレーニングジムで筋トレした後、汗で冷えたのかと思った。」

「それもきっかけですね。筋トレで汗をかけば、身体の中は乾燥するので、熱を持ちやすくなりますし、運動することで胃酸が出て、胃の中自体からも熱を発生させてしまうので、熱が上がるきっかけを作ってしまったんでしょうね。」

胃と肝臓が興奮して、のどの炎症を引き起こし、風邪をひいたことで、元々興奮していた胃と肝臓は、風邪のパワーに押され、機能低下を起こしていたのだ。

そこで、胃と肝臓の機能を取り戻すように鍼を行い、全体の気の流れを改善するために、足ツボマッサージを行い終了とした。

終わってみると、

「今まで痛かった関節が楽だし、胸もスツとした感じがす。」

と、喜んで帰られた。

このように、風邪にもいろんな種類があり、たんに風邪薬を飲めばいいというものではないということを覚えておこう。

❖ 5 : 風邪がしっかり治らなかったことで 不安神経症に

30代 女性

1週間前から、急にいろいろなことに対して神経質になってしまい、悩んでいるとのこと。

原因は、まったくつかめず、不安で不安で仕方がなく夜も眠れないらしい。

そのために、目の下に大きなクマができていて、目が腫れている。

まず、うつ伏せで、背中のチェックを行うと、かなり胸郭（肋骨で覆われている範囲）がむくんでいる。

脈を診ると、かなり体力も精神力も低下していることがわかる。

しかし、下半身の筋力は意外にも元気である。

通常、体力も精神力も低下していて、下半身がしっかりしていることはあり得ないことだ。

そのため、この症状は、積み重ねで起こったものでなく、一過性のものであることが容易に判断できる。

問題は、この胸郭のむくみであるが、

「最近、風邪か気管支炎にかかりましたか？」と、聞いてみると、

「はい、2週間前に風邪をひいて38度以上の熱が出ました。」

これだけ熱が出れば、発汗したあと、むくみが抜けるか、発汗しすぎて全身が疲れ果てるかのどちらかだが、この患者さんの身体はどちらにも当てはまらない。

そこで、

「発熱の後に、汗はかきましたか？」

「いいえ、まったく汗は出ませんでした。」

ということで、まだ完全には風邪が治っていないことが判明した。

汗が出ずに、風邪の症状だけ落ち着いた場合、まだ風邪は治っていないと考えて間違いないのだ。

まず、風邪を体内から追い出すために、お灸を行い、背中から発汗させる。

次に、仰向けになってもらい、お腹を触ると、右下腹部に巨大なしこりがある。

患者さん自身、この固まりには、今まで気づいていなかったようだ。

ということは、最近できたものかもしれない。

とりあえず、囲い灸をやってみて、この固まりが何であるか確認することにした。

すると、意外なことに、固まりを囲ってみると、胃の形が現れたのだ。

そう、胃下垂ということだ！！

さらに、お灸を続けていくと、胃下垂の下（小腸だと思う）に宿便があることも判明した。

身体というものは、面白いもので、便秘のように、お腹の中で便が詰まり、流れるものが流れないでいると、気持ちも同じようになってしまうのだ。

要は、便秘で溜まりすぎると、心の中でも、いろんなものを溜めこんでしまいつらくなってしまう。

さらに、便が少し動いては、また止まりという状態で、少

しずつしか移動しないと、心の進歩も少し進んでは、また振り返りと、無駄な行動を取ってしまうことにつながってしまう。

従って、この方の、不安神経症は、便秘によるもので、便がきれいに流れれば問題ないものであることがわかった。

その証拠に、下腹部のしこりが抜け、背部のむくみがなくなったことで、目の下のクマもなくなり、表情が非常にスッキリしてしまっただ。

肺が病み続けると、胃に影響が出ることがある。

それが今回の胃下垂につながり、胃が下がってきたことで、小腸が押しつぶされ、便秘になってしまった。

その結果、不安神経症のような症状が出てしまったのだ。

このように、西洋医学では、一見全く関連性のない病気同士が、東洋医学の考えであれば、きれいに結びつき、治療効果を上げることができる。

本当に素晴らしい医学であると、心から感心してしまう症例だった。

❖ 6 : 原因不明の発熱

30代 女性

1年前から、原因不明の発熱が始まる。

月に1回、必ず起こる発熱。

病院へ行っても、特に問題があるわけでもなく。

ただ、解熱剤をもらい、飲むと熱は下がる。

しかし、熱が下がったと思うと、必ず寝違いが起きる。

しかも、寝違いは、決まって右側に痛みが出るらしい。

患者さん本人や、家族の考えでは、解決できそうもなく、
病気でもないのに発熱があることに、少し恐怖感を覚えて
いた。

そこで、当院に通われている姉の勧めで、当院へ来院する
ようになった。

小さい頃に腎炎を経験していることから、考えられる原因
は、その辺りからの発熱では？と、思うのだが、医師から
は、その関連はなさそうとのこと。

まず、身体全体のチェックを行うと、非常にバランスが崩
れている。

上半身は、今にも倒れそうなほど、弱弱しいのに対して、
下半身は、いつまでも立っていられるほどたくましい。

(女性に対してたくましいとは失礼しました。)

この状態からは、上半身に問題がありそうだということしかわからない。

脈や身体の状態から、お灸が合いそうなので、まずは、上半身の弱さをお灸で整えることにした。

さらに、首や背中の筋力アップを行うために、少しだけトレーニングの方法を指導した。

1ヶ月後の来院では、この1ヶ月間、全く問題なく快調だったとのこと。

さらに1ヶ月後にも、問題はなく、発熱も寝違いも出なかったようだ。

このような感じで、1か月に1度の通院を4回の鍼灸治療を行ったが、3ヶ月経っても、発熱や寝違いは出ていないようだ。

そればかりか、当院へ来院するのは、ちょうど生理1週間前になっているらしく、この患者さんは、この時期が一番精神的につらくなっていたらしい。

ところが、通院を開始してから、生理前のつらさが全く出ていないとのこと。

主訴であった、発熱と寝違いを重視した治療であったにもかかわらず、全く頭になかった月経異常に対しても、効果を発揮していたとは、いやはや東洋医学の奥の深さを思い知らされる症例であった。

❖ 7 : 新型インフルエンザに対して、漢方治療ではどのように対応しているか？

今週は、[中医学で日本と中国の交流を深める日本中医学会](#)での内容について書いていきます。

新型インフルエンザと言えば、タミフル、パンデミック、フェーズいくつなど、いろいろな言葉が飛び交いましたので、皆さんの記憶にもしっかりと残っている言葉だと思います。

そんな中、大流行している時期に、高熱を出した場合、真っ先に行くのが病院ですね。

その行った先の病院に「どのような先生がいるのか？」、知って行くのと知らずに行くのとでは、まるっきり安心感が

違いますね！

私は、東京ですので、高熱を出した場合、まずこの先生に診てもらおう事はないでしょうが、九州、特に熊本に住まれている方にとっては、とても心強い情報だと思います。

この日本中医学会設立がなければ、この加島先生を知る事はなかったかもしれないほど、今まで無名であった内科医なのですが、とんでもない先生でした。

何がとんでもないかというと、日本にこれほどまでに現代医学と漢方医学（中医学）を織り交ぜて診療されている先生を、私は今まで見た事がなかったからです。

漢方の良いところは、ウイルスの種別を検査結果が出るまで、対処方法がないという西洋医学と違って、症状と体質、

体格などから、その場で漢方の処方をする事が可能なところ
ろです。

従って、ウイルスのタイプを調べている間にも、漢方を処方して症状を抑えるような対応が可能なんです。

しかも、この加島先生は、通常1日に2~3回の服用が基本である薬の飲み方に対して、新型インフルエンザのように急性疾患で進行の速い病に対して、身体に反応が出るまで、次々と服用していき、症状を抑えるような対応を取っています。

漢方専門の先生であれば、このような対応の仕方をする先生もいるのですが、西洋医学が本業で、その中に漢方を取り入れている先生では、皆無ではないでしょうか？

そんな加島先生を知る事が出来たこの日本中医学会。

行ったかいがありました。

ちなみに、加島先生は、熊本赤十字病院の内科で勤めています。

熊本方面の方で、体調を崩されている方が、加島先生を訪ねてみてはいかがでしょうか？

❖ 8 : インフルエンザの対策には？

今年もインフルエンザの時期に突入しましたね！

インフルエンザの対策は、バッチリですか？

インフルエンザの対策として、有名なところでは、

1. 手洗い
2. うがい
3. マスク

というところですが、これらはあくまで外敵遮断という対策方法です。

インフルエンザウイルスが、体内へ入らないようにする最低限の対策方法です。

上記のようなインフルエンザ対策を、どう頑張っても、体内へ入ってくる時は入ってきます。

それがウイルスの怖さです。

そのような場合、活躍するのが、免疫力です。

免疫力を高めるためには、栄養が重要です。

そこで、免疫力を高める栄養素として、人気があるのが、

1. ビタミン
2. カテキン
3. 乳酸菌

これだけ取れば、まずは、インフルエンザ対策としてはばっちりです。

❖ 9 : インフルエンザに対する本質的な対策法は？

一般的なインフルエンザの対策は、昨日しっかりと書きました。

そして、ほとんどの方が、あの内容で完璧？だと思っています。

足りないと思う人は、その前にワクチンを打って”完璧”と思っているでしょう。

ところが、私は、そうではありません。

本来人間の身体には、自然治癒力という能力があります。

当然、インフルエンザウイルスが体内へ入った時に、そのウイルスと闘う能力が**自然治癒力**です。

しかし、**この自然治癒力をなくすような世の中が現代社会です。**

要は、**どのような対策をしても、現代社会の波に乗って生きている以上、インフルエンザにかかりやすいという事なんです。**

意気消沈しちゃいましたかね？

でも、大丈夫です。

しっかり対策しましょう。

人間が健康であるために、自然治癒力をなくさないで生きていけるように、どのような事に注意すればいいでしょうか？

分かりますか？

それは、この大原則が重要なのです。

<https://youtu.be/b0ypiGKLtqg>

誰もが知っている

1. 運動
2. 食事
3. 睡眠

この3つです。

さらに、冷え対策ができれば完璧です。

では、

1. 運動すればいいか？
2. 目一杯食べれば良いか？
3. いくらでも寝ればいいのか？
4. 十分に身体を温めるようにカイロや湯たんぽを使えば良いか？

全て×です。

???

と、考えた人？

1. 運動はなぜしなければならないのか？
2. 食事は何のために取るか？
3. 睡眠はなぜ取らなければならないか？
4. 冷えて何なのか？

これらが、理解できれば分かるはずです。

まずは、どんな病気でもかからない体を作ることが大前提
ということです。

インフルエンザが怖いとインフルエンザ対策。

0-157 が怖いと 0-157 対策。

癌が怖かったらがん対策？

肺炎で死にたくなかったら肺炎対策？

さて、あなたの恐れている病気はいくつあるでしょうか？

そして、その対策を確実に効果のある対策をどれだけできるのでしょうか？

これだけの対策ができれば、他の病気の怖さは全くないのでしょうか？

あなたの身体は一つです。

弱い体を持っていれば、どんな対策も意味がありません。

強い体をもってすれば、どんな対策も不要になります。

あなたは、何を恐れ、どのような対策が必要と感じますか？

❖ 10 : インフルエンザで解熱剤を飲んで自律神経失調症からうつ病に？

自律神経失調症とうつ病と3年前に、病院で診断され、徐々に症状が悪化している患者さん。

西洋医学も東洋医学も、治りそうな方法があれば、全て試してきたとのこと。

しかし、どの先生に診てもらっても、どんな薬や漢方を処方されても、一向に改善できない。

いつものように、インターネットで良さそうな病院や治療院を、リサーチしているところに、このブログを見つけ来院。

■■■ 自律神経失調症とうつ病が発症した原因 ■■■

3年前に、インフルエンザを発症し、救急外来を受診したところ、専門医がいなかったのか、解熱剤を処方されただけで、帰されたらしい。

帰宅後、薬を飲むと、非常に胃が痛くなり、そこから自律神経失調症へ発展。

自律神経失調症を改善させるために、薬を飲み始めると、症状悪化。

今度は、うつ病と診断されるようになり、薬が増えてしまったとのこと。

「原因は、解熱剤を飲んだだけなのに、なぜ

こんなことに・・・？」

次第に西洋医学に不信感を抱くようになり、漢方や鍼灸を受け始めるようになったとのこと。

この流れから行くと、単に自律神経（交感神経・副交感神経）の調整をしていけば、症状を改善できると確信し、お灸治療を開始。

しかし、お灸を行なう毎に、身体の変化から

「何かもっと深い原因があるのではないだろうか？」

という疑惑が沸き起こり、3年前の出来事以外の問題を探るための問診を始めることに。

そこで分かったことは、親との確執だった。

それも、生後間もなくから続いているものと分かった。

本人の感覚では、生まれる前の母親の病状も、問題だったのだろうとのこと。

そして、この問題にたどり着いた段階で、今まで苦しんでいた症状の大半が次第に消失しはじめることとなった。

一番重要なところはまだ解消できていないが、原因は分かっており、すぐに改善できるような問題ではない。

そのため、じっくりこの問題を改善するための、行動を患者さん本人が行なっていくだけで良い状態までたどり着いた。

後は、私は、単なるサポート役に回るだけで、治療は終了となるだろう。

やはり根本治療には、原因を探し出すことが一番重要であると確信できた。

■■■ 治療家に最も必要なマインド ■■■

また、治療に関しては、症状を改善するための手がかり（道案内）を作るようなものであり、うまく持って行けば治療を行わずとも、自己解決できるものである。

我々、治療家は、治療で結果を残して満足ではなく、その患者さんが、今後同じような症状に襲われたとしても、

焦ることなく、自己解決できるところまで指導していくこ

とが、重要課題のような気がする。

逆に、患者さん側も、その場の症状軽減だけを望み過ぎることなく、本質的に治る方向で、治療を受けるようになると、もっともっと治療家が育って行くと思う。

治療家は、患者さんによって育つものなのだから！！

もっと**健康**になるために

もっと詳しい健康情報をご希望の場合には、下記から、
全102ページ、販売価格1,980円

あなたの症状が治らない9つの理由

というレポートを**無料でプレゼント**させていただいています。
このレポートを請求していただいた方は、健康に関する情報が、ご登録のメールアドレスに、毎日届くようになります。
このレポートとメルマガだけでも、十分にあなたの症状を改善するヒントを得られるような内容になっています。
こちらから無料で請求できますので、積極的にこの機会を利用してみてください。

レポート請求はこちらをクリック



QRコードからも請求できます。



作者：キュアハウス鍼灸治療院 院長 中村幸生

メールアドレス：info@curehouse.jp

★共に健康になり幸せな人生を歩むための学びをしていきませんか？：「キュアハウスの健康幸生塾」

<http://curehouse.jp/blog/kouseijuku/>

★どの健康情報とも全く違う視点であなたの症状を取り除く教材がそろっている：「キュアハウス健康情報館」

<http://curehouse.biz/>

★原因不明の症状を徹底的に解明し改善法を手に入れることができるブログ：「原因不明の痛みや病気を改善するたった3つの秘訣」

<http://blog.livedoor.jp/curehouse/>

★病院や治療院に何度通ってもなかなか治らない症状を専門とする鍼灸整体治療院：「キュアハウス鍼灸治療院」

<http://www.curehouse.jp/>



このレポートは、医療に頼らずに、自分自身で症状の原因を見つけ出し、病院の無駄な待ち時間の間に、自ら症状を改善できるような知識と技術をつかみ取っていただくためのヒントを掲載しています。

このレポートにより、あなたの将来における不安が少しでもなくなれば幸いです。

株式会社キュアハウス
キュアハウス鍼灸治療院
院長 中村幸生